

## 海が好き

初夏の湘南海岸。青い空、青い海。太陽が海面に反射してキラキラと輝く。大きなウネリが沖から迫り、波が盛り上がりつつある。狙いを定めてパドルング。サーフボードがグッと波に押されてスピードに乗って滑り出す。地球のエネルギーを感じる最高の瞬間だ。

私は、湘南の鵠沼で生まれ、鵠沼で育った。海まで自転車ですぐ。小さい頃から海が好きで、海は一番身近な遊び場だった。高校1年の夏、初めてウィンドサーフィンを体験、その後サーフィンにどっぷりとはまっていった。就職後も毎日朝4時に起きて出勤前に海へ入るといって生活年300日以上続けた。サーフィンの魅力は、自然と一体になれること。広大な海の前では人間なんてちっぽけな存在だ。サーフィンはそんな当たり前のことを心底感じさせてくれる。

海の表情は毎日変わる。風、気温、光、湿度、匂い、砂や水の感触、五感で海を感じる時、自分が生きていることを実感する。四季によって変化する富士山や江の島の景色も息をのむほど美しい。私は、この美しい湘南の海とともに生きてきた。

## 20年間ごみ拾いを続けて

そんな私にとって、ビーチクリーンは日常の一つだった。サーファーとしてホームポイントの海をきれいにしたいと思うのは当然だったし、小さい頃から海に育ててもらった自分としては、海への感謝という気持ちを表すことができる具体的な行動の一つでもあった。だからビーチクリーンをずっと続けてきたし、続けていけば海岸ごみをなくすことができると思っていた。

しかし、あるとき、(公財)かながわ海岸美化財団の統計を見て愕然とした。湘南の海岸ごみの総量は年間5,000t。しかもこの数十年間、総量は全く減っていないのだ。20年以上、私は多くのボランティアの仲間とともにビーチクリーンをしてきたが、私たちの活動は無意味だったのか。全身の力が抜けた。

海岸ごみについて調べていくと、海岸ごみの7割は川から流れて来て、その川ごみは街から流れて来ることが分かった。つまり、海岸を聞いて、書籍や雑誌も読みまくった。そして、ある論文との運命的な出会いを果たす。「海岸環境改善のための報奨制度(ブルーフラッグ運動の例)」。立教大学観光学部教授(当時)石井昭夫氏が監訳した論文である。早速、立教大学に電話したが先生は既に退官されており、薬をもすがら思いで先生のご連絡先を教えてください、「ご自宅を訪問。石井先生から海辺の国際環境認証「ブルーフラッグ」の話聞いた時、「これで海岸ごみ問題を解決できる!」と直感。そして「日本中の海にブルーフラッグを掲げる!」ことを目標に定める。私のライフワークが決まった瞬間だった。

私はそうした問題意識を持ってから、海岸ごみ問題の研究に没頭した。海を専門とする研究者や実践家など100人以上の人に会って話を聞いた。書籍や雑誌も読みまくった。

## アジア初のブルーフラッグ認証取得

「ブルーフラッグ」(以後、BFとする)とは、デンマークに本部がある国際NGO FEE (国際環境教育基金) による認証制度。①水質、②環境教育と情報、③環境マネジメント、④安全性・サービスの4分野、33項目の認証基準があり、これらの基準を満たしたビーチやマリナはフラッグを掲げることができる。1985年にフランスで誕生し、現在世界45ヶ国、約4,500ヶ所が取得。特にヨーロッパでの認知度は高く、BFを取得した海岸は「きれいで安全で誰もが楽しめる優しいビーチ」として、多くの人々がバカンスに訪れる。

2011年当時、日本ではFEE JapanがBFを認証することになってはいたものの、まだ認証された海岸は一つもなかった。国内にはBFを認証する体制も制度もなく、文字通りゼロからのスタートだった。

BF日本初取得の挑戦という「使命」に燃えた私は、2011年5月、仲間とともに湘南ビジョン研究所を立ち



江の島の海中に潜って海底清掃をする著者

「海岸ごみから地元の湘南海岸を守りたい」とブルーフラッグ取得のために奔走し、今なお走り続ける片山さんにブルーフラッグとは何か、そして湘南という里海を守り、未来へつなげるための活動などをご紹介いただいた。

# つながる 里海

～日本初のブルーフラッグを取得して～

片山清宏 (NPO 法人湘南ビジョン研究所 理事長)

Shonan

# THE BLUE FLAG

for

# THE BLUE EARTH

上げ、「日本初のBF取得を湘南海岸から目指す」と宣言し、活動を開始。しかし、周りは「湘南の汚い海でBFを目指すなんて無理でしょ!」と冷やかだつた。湘南海岸沿いの自治体の市長や海岸組合長に、BF取得を提案して回ったが、無名の若造の私の提案は見向きもされなかった。

その中で唯一、鎌倉市の由比ガ浜茶亭組合の増田元秀組合長が、「BFには大きな可能性がある。ぜひ一緒に挑戦しましょう!」と賛同してくれた。早速、当研究所の仲間とともに、週末になると由比ガ浜に通い、BF取得に必要な水質調査、安全リスク調査、バリアフリー整備、環境教育などを進めた。また、BFを紹介するフリーペーパーを作成して海沿いのお店に置かせてもらったり、市内の小中学校や市民団体にBFの講演をしたり、できることは何でもやった。

そして、鎌倉市の松尾崇市長が「由比ガ浜で日本初のブルーフラッグを目指す」と記者会見で正式に発表。その後、活動を本格化させ、ついに2016年4月、コペンハーゲンで開かれたFEEの国際審査委員会において由比ガ浜がアジア初・日本初のBFに認証された。5年越しの活動の成果が実り、これまでの苦労が報われた瞬間だつた。

### 海の学び場「湘南VISION大学」の開校

由比ガ浜でアジア初のBFを取得した後、私たちはもう一つのプロジェクトに取り掛かった。海の環境教育に特化した市民大学「湘南VISION大学」の設立だ。

実は、BF取得を目指して活動する中で、限界だと感じていたことがあった。それはBF活動の中心は、海の専門家や行政、海岸関係者などに限られ、一般市民の方々の参加が極端に少ないことだつた。海に関心のある人たちが海の大切さを声高に叫んでもダメだ。多くの人にまずは海を楽しんで海を好きにならしてもらおう。そうすれば、海の環境保全に協力してくれる人が増え、BF活動の裾野も広がっていくはずだ。3年間の準備期間を経て、2018年5月、海の学び場「湘南VISION大学」を開校した。

湘南VISION大学は、子どもからお年寄りまで、誰でも参加できる市民大学だ。キャンパスは「湘南の海」。「海をもっと楽しもう!」

をテーマに、ユニークなカリキュラムを揃えている。例えば、プロセラーと共に海上を周遊する「クルージング体験」、新しい海の楽しみ方を体感する「ビーチナイトピクニック」、元プロ野球選手による「ビーチでキャッチボール」、環境と健康をテーマにした「サンセットビーチヨガ」、真夏の夜の海でLEDライトを使う新感覚「ビーチナイトゴルフ」、湘南の食材を使った「シーフード料理教室」など、通常の海の環境教育では思いつかない面白い授業がいっぱいだ。普段、海には縁遠い都会の女性やビジネスマンからも好評をいただいている。

### 海を守り、未来をつくる

湘南ビジョン研究所を立ち上げて今年で10年目。BF取得海岸は全国で4箇所が増えた。2019年12月には当法人、文教大学湘南総合研究所、FEE Japan主催で、国内4都市のBF認証海岸の関係者が一堂に会する「BLUE FLAG Japan Summit 2019 in 鎌倉」を開催。現在、神奈川県内では、藤沢市「片瀬西浜・鶴沼海水浴場」、逗子市「逗子海岸海水浴場」もBF取得を目指して準備を進めており、今後さらに全国に広がっていくことが期待できる。

湘南VISION大学は開校3年目。2年間で51講座開催、合計2251人の生徒に受講いただいた。大学の理念に共感してくれた生徒が受講後に運営スタッフや先生になるなど新たな動きもある。受講生を1万人輩出することが私たちの目標だ。

活動をしていると、いろんな方から「仕事が忙しいのに、よくボランティアで続けられるね」とか「片山さんの原動力は何なの?」と聞かれる。答はいつも同じだ。「海が好きだから」。海が好きだから海を守りたい、と純粋に思う。その想いに理由や理屈はない。

市民活動の一人ひとりの力は限りなく小さいが、その純粋な想いや熱意は伝播すると大きな力になる。私たち湘南ビジョン研究所は、市民の力で海の環境問題を解決できると信じている。これからも、「海を守り、未来をつくる」のローガンを胸に、全国のたくさんの方々とつながって、海の未来について語り合い、一緒に行動し、この素晴らしい日本の里海を守り、次世代に残していきたいと思う。



由比ガ浜海水浴場でブルーフラッグを持つ著者(左)と奥さん



「湘南 VISION 大学」授業でサンセットビーチヨガを楽しむ受講生たち(由比ガ浜)



「湘南 VISION 大学」授業「ビーチナイトピクニック」を楽しむ様子(鶴沼海岸)



NPO 法人湘南ビジョン研究所の設立総会で設立メンバーと記念撮影(2013.9)



「湘南 VISION 大学」のセーリングの授業の集合写真(葉山マリーナ)



著者(左)とプロサーファー(堀越力さん)



「湘南 VISION 大学」開校式での著者の開校挨拶



「BLUE FLAG Japan サミット in 鎌倉」でパネリストを囲んで集合写真



由比ガ浜で湘南ビジョン研究所スタッフたちがビーチクリーンする様子

### ブルーフラッグの歴史

- 1985年 ブルーフラッグの構想がフランスで紹介される
- 1987年 EUの支援によりブルーフラッグがヨーロッパで紹介される
- 1992年 同様のブルーフラッグ基準が全てのヨーロッパ諸国で紹介される
- 2001年 南アフリカでブルーフラッグが開始、国際的プログラムとなる
- 2004年 ブルーフラッグがカリブ海で開始される
- 2005-2010年 ブルーフラッグがブラジル、カナダ、モロッコ、チュニジア、ニュージーランドで実施される。
- 2010年 41カ国がブルーフラッグを実施
- 2014年 50カ国がブルーフラッグを実施
- 2016年 アジア・日本初のブルーフラッグを由比ガ浜で取得

BLUE for THE BLUE EARTH